Sakuyo Orchestra

50th 芸術・文化・感謝のこころ Kurashiki Sakuyo University

第49回 作陽管弦楽団 演奏会

指揮
森圭吾

プログラム

J.ブラームス／大学祝典序曲 ハ短調 作品80
J.ハイドン／トランペット協奏曲 変ホ長調
J.ブラームス／交響曲第2番 二長調 作品73

ソリスト
森元陽介(Trp.)
第3回作陽音楽コンクール
コンチェルト部門第1位

12/4 2016 (sun.)

14:00開場 14:30開演

会場 藤花楽堂(くらしき作陽大学内)

入場料
一般前売2,500円
学生前売1,000円
高校生以下前売500円 (当日各500円増)
※未就学児入場不可

主　催:くらしき作陽大学音楽学部・作陽音楽短期大学
お問合せ先:くらしき作陽大学演奏芸術センター　Tel／086-523-0822

作陽管弦楽団　Sakuyo Orchestra

作陽管弦楽団は、作陽音楽大学としての創立時より、プロオーケストラプレイヤーの育成、並びに地域音楽文化発展寄与の両面を目標に活動してきた。これまでに渡邉暁雄・岩城宏之・飯森範親をはじめとする指導者の下、その実力は飛躍的に向上した。
更に、2007年にイタリア国立ミラノ・ヴェルディ音楽院と友好協定締結を機に、同音楽院指揮科教授ダニエーレ・アジマン氏を客演指揮者に迎え、弦楽器・管打楽器には当学の優秀な教員が指導にあたり、より充実した授業と活動の更なる向上を目指している。
2008年にはオペラ「椿姫」（指揮：ダニエーレ・アジマン）を、2010年には作陽学園創立80周年記念公演として、チェコの名門プラハ交響楽団との合同演奏による「新世界より」（指揮：飯森範親）を、さらに2012年の1月に東日本大震災犠牲者追悼演奏会として、モーツァルト「レクイエム」、2013年3月にG.ヴェルディ生誕200年を記念したオペラ　ガラ・コンサートを地元倉敷市合唱連盟のご協力を得て演奏された。それらの演奏に対し、会場を埋め尽くした聴衆より絶賛を博すとともに、音楽関係者より高い評価を得ている。今後ますます演奏内容の充実を図るとともに、地域との連携、交流そして地元音楽文化創造の中核として、その役割を果たすことを期待されている。

森　圭吾

国立音楽大学、シュツットガルト音楽大学、同校ソリストコースを経て札幌交響楽団入団。
1984年第７回ライプチッヒ・バッハ国際音楽コンクール入選。第53回日本音楽コンクール第二位入賞（一位なし）、同時に加藤賞受賞。1996年初アルバムをリリース（ALMレコード）。
「ケイゴと学ぶフルート教室」を岡山、東京、旭川、上富良野で行い、若者に音楽の喜びを伝えるために心血を注いでいる。また、各音楽誌上に連載、投稿、またエッセーなども手がけ10年間に渡って連載された『ザ・フルート』（アルソ出版）『ケイゴ先生の何でも相談室』では、読者人気投票NO.1を獲得。そのウイットに富んだ語り口は絶大な人気を誇った。また音楽教育活動として小中学校を対象に札幌交響楽団メンバー数名による「元気が出る音楽会」を企画し、子供たちに音楽の素晴らしさを伝えるために全国を奔走した。日本を代表するフルーティストであるとともに、2001年指揮活動を開始、指揮を円光寺雅彦氏に師事し、フルートだけにとらわれないマルチミュージシャンを目指している。札幌交響楽団首席フルート奏者を30年間務めた後、2015年春、くらしき作陽大学専任教授に就任。2015年12月27日、地元総社市で初となるベートーベンの「第九」を演奏した。作陽大学管弦楽団、合唱団、総社市民による合唱団を総監督、指揮。岡山県での音楽活動の第一歩を踏み出したばかりだ。

森元　陽介

1994年生まれ。兵庫県たつの市出身。くらしき作陽大学音楽学部を特待生として過ごし卒業。卒業演奏会に出演。第32回ＹAMAHA管楽器新人演奏会出演。第49回岡山県新人演奏会出演。第6回関西トランペット協会コンクール課題曲部門第2位を受賞。第19回KOBE国際音楽コンクールＣ部門審査員奨励賞を受賞。第12回九州トランペットフェスティバルオーディションに合格。第3回くらしき作陽大学内音楽コンクールにて、コンチェルト部門にて審査員満場一致の第1位を受賞。同室内楽部門第1位を受賞。第34回霧島国際音楽祭に参加。ロームミュージックファンデーション主催、京都国際音楽学生フェスティバル2015にオーケストラメンバーとして参加。現在、客員奏者として岡山フィルハーモニック管弦楽団、中学、高校の吹奏楽部トレーナーとして演奏活動中。これまでにトランペットを谷津謙一、本村孝二、高橋 敦、杉木峯夫、ガボール・タルケヴィの各氏に師事。室内楽を白濱俊宏氏に師事。